

腎移植専門外来

慢性腎臓病が進行すると、体に浮腫みがでたり、体中がかゆかったり、食欲が低下したり、だるさや疲れやすさが出てきます。また呼吸困難感がでてくることもあります。そのような状況になり、血液検査で腎機能の低下が確認されると、透析療法が必要になってきます。透析というと多くの方が想像するのは、機械を用いて施設で行う血液透析(人工透析)ではないでしょうか。透析のように、腎臓の代わりにする治療を、腎代替療法と言いますが、実はこれには大きく分けて次の3種類あります。

①血液透析

②腹膜透析

③腎移植

腎機能の低下がすすむと、これらの3つの中からどの治療法でいくかを決めていくこととなりますが、年齢・腎臓以外の病気・生活習慣・性格なども考えて、主治医と患者さんの相談で決めていきます。もちろん途中で療法の変更も可能です。

日本では血液透析が95%以上を占めているので、透析と聞くと血液透析をイメージされる方が多いのではないのでしょうか。しかしながら世界各国と比較すると、日本の腎代替療法が、かなり偏っていることが分かります。アメリカでは血液透析が60%、腹膜透析が10%、腎移植が30%であり、ニュージーランドでは60%近くが腎移植となっているように、移植が非常に少ないのが日本の特徴です。

腎移植には、ご家族からの腎臓をもらう生体腎移植と亡くなられた方から提供を受ける献腎移植があります。腎移植後の成績は、免疫抑制薬の開発・適正な使用により、年々良くなっており、最近の5年生着率は生体腎で90.7%、献腎で77.8%というデータがあります。また生活の質や社会復帰率は血液透析や腹膜透析より優れていると言われてしています。

血液型(ABO) が合わなくても腎移植をすることができます。年齢に関しては移

植をうける方も提供する方も70歳までが望ましいとされていますが、それ以上の年齢であっても移植されることもあります。また長期の透析治療による合併症を避けるという目的で、最近では透析を経験することなしに移植を行う「先行的腎移植」が徐々に増えてきています。

当院では、これまで腎移植を希望される方においては、腎移植を行っている病院に受診をしてもらっておりました。より腎移植が身近な治療になるよう、2012年7月から第二火曜日に腎移植専門外来を新設しました。腎移植を受けられた方の定期受診をする目的だけでなく、慢性腎不全で将来的に生体腎移植を希望される方の窓口となります。また腎移植についてより詳しい説明・お話を聞きたいという患者さんも受診することができる体制を整えております。ご不明なところ、ご関心のある方は、公立陶生病院腎・膠原病内科にご相談ください。

腎・膠原病内科部長 倉田 圭

No.74 2012.10.1 発行 編集：教育・広報活動委員会